



# 家で取り組む

# ネットモラル

中学生になると、子どもの生活は激変します。スマホもその一つ。スマホを日常的に、コミュニケーションのツールとして使うようになります。その時、親はどう対処すればいいのでしょうか。情報モラル教育に詳しい、千葉県柏市立柏第二小学校の西田光昭校長先生に語っていただきました。



柏市立柏第二小学校 西田光昭 校長

## 中学入学で、子どもに生じる「変化」

中学校に上がると、友だち関係がガラッと変わります。小学校までは学級中心の交友関係でしたが、中学では部活中心の交友関係になります。今、部活の諸連絡はLINEなどで回すのが主流です。周りがみんなスマホを持っているので、連絡もスマホで取るようになります。小学生の頃はスマホ所持は少数派でしたから、スマホで連絡を取る機会にはありませんでした。それが中学1年生になった途端、スマホをコミュニケーションツールとしてフル活用し始めます。突然、スマホを日常的に使うようになるのです。しかも自分専用のスマホです。専用だから、親の目が届きにくい。気づいたら、おおごとになっている危険があります。

## 子どもの成長に合わせてルールを見直して

とはいえ、スマホを全面禁止にするのは現実的ではありません。私たちだって、明日からスマホもインターネットも禁止だと言われても困りますよね。禁止するのではなく、「どう使わせるか」「どうつきあわせるか」を考えましょう。スマホやネットに「依存」させないこと。依存とは、自分でコントロールができなくなることです。おすすめしたいのは、子どもの成長に合わせてルールの見直ししていく方法です。最初は厳しめのルールにします。「初めは心配だから、厳しめのルールにしておくよ」で、いいのです。「みんなやっているのに！」と子どもは反発するかも知れませんが、「よそはよそ。うちはうち」でいい。そして、子どもの使用状況を見守り、「成長したな。これなら、この機能を使わせて大丈夫だ」と判断したら、ルールを見直していくのです。

これが逆だと、うまくいきません。最初はやめるためのルールにしておいて、問題が発生してからルールを厳しくして縛るのだと、子どもは強く反発します。

このルールを見直すやり方は、親子の話し合う機会が増えるのもメリットです。親は「今、どんなアプリ使っているの?」と聞いて、現状を把握できます。子どもも「スマホでこういうことをしたい」と言えます。中学になると子どもと話し合う機会が減りがちですが、これなら親子のコミュニケーションを確保できます。ネットがらみの事件が起きた時も、ニュースを見ながら親子で話題にしやすくなります。

## 親として、大人の価値観を伝えよう

では、子どもとどんなコミュニケーションをすればいいのか。親の価値観を伝えてあげてほしいと、私は思います。子どもの言い分を全面的に受け入れるのでも、一方的に拒絶するのでもなく、「私はこう思うよ」と伝え、話し合うのです。

ネットやスマホの扱い方は、子どもの方が詳しいのは事実です。でも、だからといって引き下がる必要はありません。子どもとは違う視点、違う価値観、大人ならではの意見を伝えましょう。子どもが「考え方が古い!」と反発しても、それに負けちゃいけないと思います。

大人の価値観を伝えることが、子どもが自分の行動を見つめ直し、親子で話し合うきっかけになります。子どもといっしょに、「なぜだめなのか」「なぜこうすべきなのか」を話し、考えましょう。「なぜ」を考えることができれば、応用が効きます。同じような場面に遭遇した時に、「なぜ」を考え、正しく判断できるようになります。「楽しいけど、やらない」と判断できるようになる。これはスマホに限らず、お酒やドラッグなども同じですね。

ルールを一方的に強制したり、言い分も聞かずに叱るだけでは、子どもは「相談したらまた怒られる」と恐れて、言い出せません。逆に放任主義で、子どもに干渉しなすぎても、「親に言っても無駄だ」と諦めて、相談してくれません。確かに、子どもには子どもの世界があります。でも、だからといって、親が遠慮する必要はありません。子どもの世界は尊重しながらも、親として関わってほしい。子どもがトラブルや困難に直面した時、親を頼れるようにしてほしいと思います。

高校に上がると、子どもはもつと独り立ちし、子どもと関わる機会はさらに減ります。だからこそ、今のうちから、子どもとかわる時間、話し合う時間を作っておきましょう。高校に上がったって、大学生になっても、親と話し合える雰囲気を作っておきたいですね。今までそういう時間や雰囲気を作れてこなかったのなら、中学入学を契機に、設けるといい。進学は、親子の関係を見つめ直すいい機会だと思います。

# ネットの危険から子どもを守るために

保護者のみなさまへ

知識と技術を身につけ、ネットの危険から子どもを守り、安心してネットを使える環境を子どもたちに与えましょう。

## 子どもたちは大人が気が付かない間にインターネットに接続している？

私たちが住んでいるいたるところに設置されている、無料で利用できるWi-Fi（ワイファイ）。これらを使えば、スマホやゲーム機にある「接続ボタン」を押すだけで、インターネットに接続できます。

子どもたちは、大人が気づかないうちに、このWi-Fiを使ってインターネットに接続している場合があります。子どもが使っている機器がインターネットに接続できるかどうかを今すぐ確認し、接続できれば、**ペアレンタルコントロール**の設定を行う必要があります。



## ペアレンタルコントロール

保護者が、子どもたちが視聴する「コンテンツやサービスを制限したり、使用できなくしたりすること」を「ペアレンタルコントロール」と言い、適切な設定を行う必要があります。

### スマホ・ケータイのフィルタリング

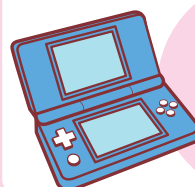
不適切なサイトや悪意のあるページを遮断して、閲覧できなくすることができます。ケータイ・スマホを契約する時に、よく説明を聞いて必ず設定しましょう。

携帯電話会社が  
フィルタリング  
サービスを提供しています



### ゲーム機・音楽プレーヤーの機能制限

携帯ゲーム機などでも、特定のソフトウェア（アプリなど）を起動できなくしたり、インターネットに接続できないよう制限を加えたりすることができます。ゲーム機などの説明書には必ずペアレンタルコントロールのことが書いてありますので、良く読んで、適切に設定しましょう。



ペアレンタル  
コントロールの  
初期設定は  
「OFF」の場合が  
ほとんどです  
必ず設定  
しましょう

## 課金トラブルを防ぎましょう！

スマホやタブレットでの課金トラブルが増えていることをご存知ですか？ 子どもによる課金トラブルは、親の注意で防ぐことができます。子どもが安心してデジタル機器を利用するためにも、しっかりと対策を取りましょう。

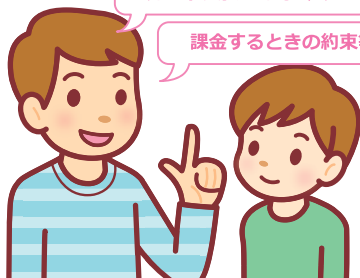
### 1. 話し合い

クレジットカードは「代金を後払いにするもの」「カードの名義人以外は利用できないこと」であることを、子どもに教えましょう。

また、課金したい場合はプリペイドカードを購入して使う、親に必ず報告する、などのルールを一緒に決めましょう。

カード支払いのしくみ

課金するときの約束等



### 2. 管理

#### 1) クレジットカード

クレジットカードは子どもに使わせないようにしましょう。

#### 2) 機器に登録してある情報

スマホやタブレットなどは、一度登録された情報は保存されていることが一般的です。

子どもが利用している機器に一度でもクレジットカード番号やパスワードを入力した心当たりがあるようでしたら、確認してその情報を削除しましょう。

#### 3) 機器の管理

「ペアレンタルコントロール」の設定をし、利用できる機能の制限を設けることは、課金トラブルを防ぐ有効な手段となります。

### 3. 確認

#### ・クレジットカード利用明細書

クレジットカード会社から送付される利用明細書を必ず確認しましょう。また、最近では、明細書が郵送されてこないWEB明細サービスも増えてきています。こまめにチェックしましょう。

#### ・メールの確認

スマホやタブレットで課金した場合は、購入完了のメールが必ず送信されます。必ずチェックしましょう。

万が一、身に覚えのない請求があった場合は

全国の消費者相談窓口へ

お住まいの地域の消費生活センター等  
をご利用ください。